生誕80周年

澤田教一：戦争と写真

'16/10/8 – 12/11

Sawada Kyoichi: From Home to Battle Zone

Sawada Kyoichi / Getty Images

開館時間：9:30 – 17:00（最終入場16:30まで）休館日：10月11日（火）、24日（月）、11月14日（月）、28日（月）
観覧料：一般1300円（1100円）高大生800円（600円）小中学生無料
※（）内は前売および20名以上の団体料金　※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※小・中・特別支援学校の引率者が、学校教育活動として観覧する場合は無料。※コレクション展観覧料は含まれません。

青森県立美術館
10TH
AOMORI MUSEUM OF ART

関連プログラムなど

講演会

「カメラマンの戦場」

UPI通信社時代の同僚で、澤田教一と交流のあった今城力夫氏に、生前のエピソードや戦地でのカメラマンたちの現場についてお話しいただきます。

日時：10月8日（土）14:00 – 15:30
講師：今城力夫氏（フォトジャーナリスト／元UPI通信社）
定員：200名　参加無料
場所：青森県立美術館シアター

［株式会社ニコン 主催］

ニコンポートフォリオレビュー＋澤田教一展鑑賞ツアー

テーマを持って撮影されている方、写真展の開催を目指す方々のための公開講評会。講評後は、講師や展覧会担当学芸員とともに澤田教一展の鑑賞ツアーを行います。

日時：10月29日（土）13:00 – 16:30
講師：北島敬三氏（写真家・ニコンサロン選考委員）
場所：青森県立美術館スタジオ
申込方法：お電話［青森県立美術館 017-783-3000］にて受付
定員：15名　参加無料

当日提出する作品について
・六切りまたはA4以上のプリント。
・1枚ずつバラにして机に並べられるようにし、
　テーマでまとめてなるべく多くお持ちください。
・点数制限はありません。
・スライドおよび画像データは不可。

ベト風（かぜ）キッチン

青森中央学院大学で学ぶベトナムからの留学生たちのご協力を得て、ベトナムの本場の味を楽しんでいただきます。青森リンゴ入りおこわ、揚げ春巻やベトナムコーヒーをぜひご賞味ください。

開店日：10月8日（土）、9日（日）、29日（土）、11月5日（土）、6日（日）
時間：各日12:00 – 15:00
場所：青森県立美術館1階　コミュニティホール
★会期中、青森県立美術館内カフェ「4匹の猫」では、留学生たちのレシピによるベトナム料理《炒めフォー》も提供しています！

映画

「SAWADA サワダ」上映会＋アフタートーク

青森県出身の五十嵐匠監督による澤田教一の軌跡をたどったドキュメンタリー映画を上映後、監督と澤田教一夫人のサタ氏をお招きして、アフタートークを開催いたします。

日時：10月15日（土）
13:00 –　映画上映［SAWADA サワダ］
15:00 – 15:30　アフタートーク［五十嵐匠監督 × 澤田サタ氏］
定員：200名　参加無料
場所：青森県立美術館シアター

映画

「ドゥン ドット（焼いてはいけない）」上映会＋アフタートーク

ベトナムを代表するダン・ニャット・ミン監督による、ベトナム戦争で戦死した、実在の女性医師を描いた映画を上映いたします。本作は、アジアフォーカス・福岡国際映画祭2009「福岡観客賞」受賞作です。上映後は、映画の歴史的背景やベトナムの映画事情などを、東南アジア映画研究者の坂川直也氏にお話しいただきます。

日時：11月23日（水・祝）
13:00 –　映画上映［ドゥン ドット（焼いてはいけない）］
14:50 – 15:30　アフタートーク［坂川直也氏（東南アジア映画研究者）］
定員：200名　参加無料
場所：青森県立美術館シアター

■ベトナム戦争を題材にしたコミック『ディエンビエンフー』の西島大介氏が描き下ろした漫画「澤田教一と行くベトナム戦争史」のリーフレットを会場で無料配布します。

■コレクション展では澤田教一と関わりのある写真家・小島一郎と劇作家・寺山修司をとりあげた「身捨つるほどの祖国／小島一郎・寺山修司」を開催中

■展覧会関連書籍を羽鳥書店から
2016年10月出版予定

西島大介『ディエンビエンフー』より

主催：澤田教一展実行委員会（東奥日報社、青森放送株式会社、公益社団法人青森県観光連盟、青森県立美術館）
企画協力：IZU PHOTO MUSEUM
助成：公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団
協賛・展示協力：株式会社ニコン、株式会社ニコン イメージング ジャパン
機材協力：株式会社DNPフォトイメージングジャパン DNP｜Photo Imaging
協力：gettyimages、株式会社カシマ、写真弘社、株式会社堀内カラー HCL、
青い森鉄道、JR東日本青森商業開発
学術協力：青森中央学院大学、立教大学・生井英考研究室
後援：駐日ベトナム社会主義共和国大使館、NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、
エフエム青森、青森県教育委員会

前売券販売所：ローソンチケット、セブンチケット、まるっとあおもり検索サイト「ポみっと！」、
県内各プレイガイド ※前売り券は10月7日まで販売

交通案内：○JR新青森駅から車で約10分○青森駅から車で約20分○青森空港から車で約20分
○東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分［八戸方面から］青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
○青森市営バス－青森駅前6番バス停から三内丸山遺跡 行き「県立美術館前」下車（所要時間約20分）
○ルートバスねぶたん号－新青森駅東口バス停から「県立美術館前」下車（所要時間約10分）

お問合せ：澤田教一展実行委員会事務局（青森県立美術館内）
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL 017-783-3000　FAX 017-783-5244
MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
HP www.aomori-museum.jp

1936（昭和11）年に青森市に生まれた澤田教一（さわだ きょういち）は、1965年、戦火の絶えないインドシナ半島に赴き、カメラマンとして活躍しました。ベトナム戦争が拡大の一途にあった時期、激戦地での撮影を続けた澤田は、34歳で銃弾に倒れるまでの約5年間に、数々の傑作を世に出し、報道写真界の頂点に上りつめます。ピュリツァー賞受賞作に含まれる《安全への逃避》（1965年）では、戦闘で故郷を追われながら、必死に生き抜こうとするベトナムの人々の姿を捉え、世界中に戦争の過酷な現実を突きつけました。

当館は、澤田教一夫人の澤田サタ氏から、2014年度より、フィルムや電送写真原稿など、多くの資料を寄託されました。この展覧会では、それらの調査に基づき、未発表のカットを含む写真や資料300点余りを展示いたします。写真に写し出された故郷と戦場、そこに交錯する生と死を通じて、澤田教一が身を賭して追いかけたものにせまります。

澤田教一
Sawada Kyoichi

1936年　青森県青森市に生まれる。
1954年　青森県立青森高等学校卒業。同期に寺山修司がいた。
1955年　米軍三沢基地内のカメラ店で働きながら、本格的に写真を撮り始める。
1961年　プロの写真家を目指し上京。同年12月UPI通信社東京支局写真部に入社。
1965年　UPIサイゴン支局にカメラマンとして赴任。9月、代表作となる《安全への逃避》を撮影。この写真で 12月、第９回世界報道写真コンテスト第１位を受賞。
1966年　《安全への逃避》を含む一連のベトナム 戦争の写真でピュリツァー賞を受賞。
《泥まみれの死》、《敵をつれて》が、第10回世界報道写真コンテストで第１位、第２位を受賞。ベトナム戦争の写真でU.S.カメラ賞を受賞。
1968年　2月、テト攻勢下のフエを撮影。9月、UPI香港支局写真部長として転勤。
1970年　UPIサイゴン支局に再び赴任。5月、カンボジアでUPIプノンペン支局のロバート・ミラー記者と共に取材に向かう途中、共産主義勢力の兵士に捕まり、8時間あまり拘束されるが無事生還。10月、カンボジア取材中、プノンペン近郊で銃殺され、34歳で死亡。

カンボジアを取材した一連の写真により、死後、1971年のロバート・キャパ賞を受賞。

ほんとうのものを知りたい、つかみたい

1. 澤田教一、ビンディン省ロクチュアン（『安全への逃避』）、1965年
Sawada Kyoichi / Getty Images

三沢　Misawa　1955-1961

2. 澤田教一、米軍三沢基地内、1958年

3. 澤田教一、小川原湖（青森県上北郡東北町）周辺、1955-61年

4. 澤田教一、米軍三沢基地正門前、1955-1961年

なぜ、なんのために、
同じ国民が戦わなければならないのだろう

ベトナム　Vietnam　1965-1968

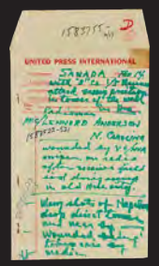
5. 澤田教一、キエンザン省ラクソイ、1965年

6. 澤田教一の手帖、1967年

7. 澤田教一、ビンフォック省ブドップ、1967年

テト攻勢下のフエ　Hue　1968

写真家・北島敬三氏の監修によるプリントで展示



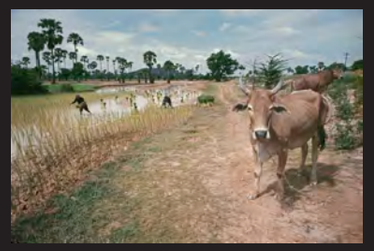
8. フエのフィルムに用いたキャプション付封筒

9. 澤田教一、フエ、1968年

10. 澤田教一、フエ、1968年

カンボジア　Cambodia　1967-1970

2－13は澤田サタ氏所蔵



11. 澤田教一、カンボジア内、1967-70年

12. 澤田教一、コンポンスプー、1970年

13. 澤田教一、アンコール・ワット、1967年

If you are there, you get good pictures.

そこにいれば、いい写真は撮れる